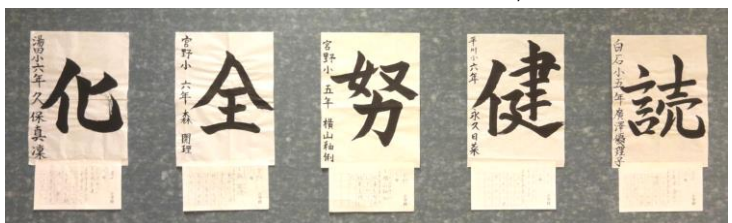


【入選佳作紹介】



大内小学校5年 末次朱
大内南小学校6年 末本 柚月
大殿小学校5年 松永 七海
嘉川小学校5年 大田 采実
佐山小学校5年 本間 凛



白石小学校5年 廣澤 優理子
平川小学校6年 永久 日菜
宮野小学校5年 横山 柚俐
宮野小学校6年 森 開理
湯田小学校6年 久保 真凛

【書道パフォーマンス】

表彰式に続き、山口高校書道部2年の秋川琴音さんによる書道パフォーマンスがありました。

2畳分の大きさの紙に揮毫してくださいました。

「よろしくお願います！」のかけ声からはじまり、気合の入った力強い運筆に鳥肌がたちました。かつて菜香亭で著名人が宴席で書や絵をかいて見せたといいますが、その気分を味わえたように思います。



全身の力をうまく使って重い筆を動かす。一画一画に魂がこもる。

めざせ三筆！ 明治三筆の紹介



左から、日下部鳴鶴・巖谷一六・中林梧竹

菜香亭の扁額の中にひとときわ異才を放っているのが、「明治三筆」と呼ばれた巖谷一六(写真中央)の書です。「三筆」というのは、日本の歴史上どの時代にも位置づけられ、それぞれの時代を代表する書がうまい人(能筆家)ベスト3を指すものです。

明治三筆は、上の写真の左から、日下部鳴鶴、巖谷一六、中林梧竹です。

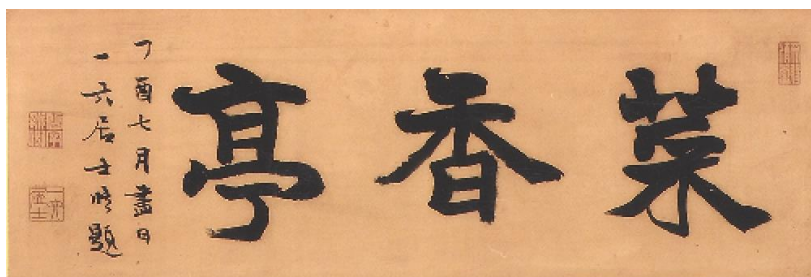
菜香亭にある書は、巖谷一六が明治30年に山口の豪商家に長期滞在した折、菜香亭で宴会があり、そのときに頼まれて書かれたものと思われまます。

巖谷一六は、明治の政治家、書家。近江国(滋賀県)生まれ。家は代々水口藩に仕えた医者でした。16歳のとき三浦東園について医学を学びました。のち帰郷して藩の侍医となりますが、明治維新後は内閣書記官、元老院議員と役人生活を送りました。

さらに貴族院議員に選出され政治家として活躍しました。

漢学、絵画など学問、諸芸にも優れた書でしたが、書で世に知られる存在となり、六朝(りくちよう)書法を学び、一六独自の清新で新奇な書風を確立しました。

子息の巖谷小波(さざなみ)は、日本のアンデルセンと称えられる日本児童文学の祖といわれる人物です。



書に通じている人に人気。一六の独特の書体が凝縮されている。



秋川琴音さん。書は早速大広間の床の間に飾りました。

生誕101年 おごうさんアルバム



元号が新しくなることから「新」。この清々しい書を見ると元氣と希望をいただけます。新元号が発表される4月1日(月)から5月6日(月)まで再び展示しますので、是非ご来館ください。



菜香亭の5代目で最後の主人だった「おごうさん」こと齊藤清子さんは、大正6年生まれ。写真は、おごうさんが15才頃と思われるので昭和7年の頃のお正月のもの。大広間の床の間には、東桃園の掛軸、左には4代目甲兵衛の手による松の豪華な活け花が見えます。おごうさんも着物に羽織姿であらたまつた装い。さすが老舗料亭の正月という風格があります。



前列の右から2番目がおごうさん、一番左がおごうさんの父である4代目甲兵衛

サビエルからの贈り物2018 Gift+徳地和紙の折形で心を包む、開催



徳地手漉き和紙の伝承に務める船瀬さん



徳地和紙を使った創作活動をしている松井さん



正月飾り etc.

平成30年12月8日(土)、今年のワークショップは昨年引き続き山口の伝統工芸「徳地手すき和紙」を使って、武家社会の礼法の一つ「折形」、そして「折形」のアレンジを学びました。最初に元山口市地域おこし協力隊、船瀬春香さんから「徳地手すき和紙」の製法、種類など貴重なお話を伺いました。そして菜香亭サポーターズ松井久代さんによる指導のもと、インテリアの一つに温もりある『灯り』や古典的な折り方の『花包み』、生活の中で使える『ぼち袋』の制作となりました。和氣藹々とした和やかな雰囲気の中で制作に熱が入りました。また、半紙半分で作る箸袋にもチャレンジ。最後は、蓬菜包をアレンジしたお正月飾りや炭包みについての説明でした。今から約600年前、贈物を包む武家社会の礼法の一つとして生まれた「折形」。この伝統技術を学ぶ機会を今後も続けていきたいと思えます。



多くの参加者で賑わう佐藤菜作が好んだ北客間



作法に則った筆包み・花包み・墨包み



徳地和紙を折って作る「灯り」は柔らかな光

西の菜時記

平成31年2月20日発行 第51号
発行元: 山口市菜香亭 指定管理者
特定非営利活動法人 歴史の町山口を甦らせる会

西の菜時記

平成31年2月20日発行 第51号
発行元: 山口市菜香亭 指定管理者
特定非営利活動法人 歴史の町山口を甦らせる会